

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイSES藤枝みどり校			
○保護者評価実施期間	令和7年10月1日 ~ 令和7年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	令和7年10月1日 ~ 令和7年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月1日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では、学齢期に経験できるであろうあらゆる経験を事前に疑似体験し、「やったことがない」ことを「やったことがある」に変換できるプログラムを展開しています。	疑似体験を行う時は出来るだけ再現性を重視できるように計画を行っている。子どもたちそれぞれのステージに合わせてその日その日のゴールを決め、少しづつ「出来た」が経験できるよう配慮している。	以前より行っている活動をより再現性豊かにし、子どもたちが楽しんで経験できるように今後も新たな疑似体験を増やしていく。
2	集団活動時には最低限のルールを決め、すべての子どもがルールにのっとり活動できる支援を行うことにより、子どもたちに「聞く力」を付けてもらう。反対に個別活動時には各自の好きな活動が出来る様にしている。	子ども達に指導する際には「ソクラテスの問答法」を活用し、指導のみにならない様に子どもたちが考えて答えを導き出せるよう配慮を行っている。	問答法を活用することにより、より子どもたちが「聞く力」を養えるように丁寧に自発的に行動できるように取り組む。
3	基本的生活習慣、身辺自立はもとより、相手の気持ちになって考えられる療育。	言葉遣い、態度等相手がどう思うか、また自分がされたらどう思うかを問答法で確認しながら話を進めている。	相手を思う気持ちを考えることで、客観的に自己を見つめられるようを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われる事 ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	イベントや、職員の子どもたちの関わり方についてまとまりがスムーズに行えない時があり、イベント倒れが時々出てしまう。	職員それぞれに療育に対し思いがあり、意見を出し合う段階で話がまとまらなくなってしまう。	法人の基本理念を再確認し、事業所が目指す子の職員意識の統一を行う。また、子どもそれぞれの特性をよく理解しそれぞれの療育が充実出来るようにしていく。 職員それぞれの思いや考えに、「根拠」と「目標達成に対するプロセス」を明確化させ、考える力を養っている。
2			
3			